

長崎もり通信



▲森林ボランティア団体意見交換会(にっしょうかん新館梅松鶴:長崎市)

7 2026
No.101

令和8年度森林ボランティア団体 意見交換会 ～森林ボランティア活動の充実について～

チューリッヒの森 整備ボランティア活動 ～ツバキの育林～

フォレストマスター育成研修 及びステップアップ研修 開催 ～樹木医から学ぶ森の基礎～

森のキセキ ～竹の分解～



長崎県の皆様に森林づくりに関する情報をお届けします

フォレストマスター研修に参加された皆さま

令和8年度 森林ボランティア団体 意見交換会

令和8年6月27日（土）、にっしょうかん新館梅松鶴にて「令和8年度森林ボランティア団体意見交換会」を開催しました。今年度は森林ボランティア団体24団体・2企業、総勢36名の皆様にご参加いただきました。

はじめにセンターの取組や年間事業について説明を行いました。現在、長崎県に登録をしている森林ボランティア団体は58団体、企業の森づくり活動をしている企業は7団体あります。

昨年度から今年度の5月にかけて、新しく加入した森林ボランティア団体「ひびき里山保全舎」「環境ネットながさき」「対馬したる里山林保全の会」の紹介もおこないました。

次に、長崎県林政課計画調整班よりながさき森林環境税の取組について説明がありました。森林環境税は、森林環境の保全や県民で森林を守り育てる意識づくりを図るための事業に充てられています。

様々な成果があがっている一方、県民の認知度が低いことが課題であり、今後も継続的な取組と森林ボランティアなど県民が森林に触れあう機会を増やす必要があるとの事でした。

今年度の意見交換のテーマについては、事前に参加の皆様に話したい内容を尋ねていました。皆さまから出た課題を整理し「森林ボランティア活動の充実について」というテーマを設定。その中で、・活動の継続・会員の減少・活動の目的・安全管理・役割分担・資源活用といったサブテーマを設け、各班選択して意見を出し合っていました。



意見交換 各班の発表



センター業務について



ながさき森林環境税の説明

各班で出た課題や意見については別紙に取りまとめられます。今後の活動の参考にさせていただきます。

今回の意見交換会では森林ボランティア団体が抱える長年の課題に対し、前向きな意見や解決案を共有することができ、実りある時間となりました。お忙しい中ご参加いただきました皆さま、本当にありがとうございました。

チューリッヒの森 整備ボランティア活動

令和8年5月16日（土）、西海市大瀬戸町雪浦幸物地区にて、2023年12月に植樹したツバキの育林の一環として、整備ボランティア活動が行われました。チューリッヒ保険会社 社員11名と、西海市役所農林課、当センターが参加し、苗木の周り一坪分の雑草を刈り取る坪刈り作業に当たりました。ツバキはまだ低木であるため、雑草に埋もれないよう、健全な成長を促すことが重要です。この日は作業方法や安全な刈払い機の使い方について確認した後、作業が進められました。初夏の陽射しが強い中での作業でしたが、丁寧にツバキの周りを刈り込んでいきました。

作業後はレクリエーションとしてモルックが行われ笑顔で楽しみながら、都会の日常を離れて森の中での時間を過ごしていました。毎年、社員が参加して継続的に活動を実施することで、自分たちの手で育てる森との関わりが深まり、環境保全への想いも育まれています。



チューリッヒ保険会社 社員の皆様

フォレストマスター育成研修 及びステップアップ研修 開催

令和8年6月11日（木）、フォレストマスターの登録を目的とした「フォレストマスター育成研修」を開催しました。研修では、木育を実施する上での基礎知識や重要事項に関する講義のほか、実際に森林に入っでの安全確認および対策についての現地研修を行い、受講者の皆様に習得していただきました。本年度の研修を経て、フォレストマスターの登録者は80名に達します。



育成研修の様子

午後からは、既に登録され各地で活動している指導者も合流し、「ステップアップ研修」



樹木医会久林氏、生野氏による
現地研修

を実施いたしました。今回は長崎県樹木医会の久林氏と生野氏を講師に迎え、木育フィールド学習の事例紹介と現地での指導をいただきました。専門分野で活躍されるお二人のお話に、参加者が熱心に耳を傾ける姿が印象的で「今後の活動に取り入れたい」「活動の幅が広がった」との感想が寄せられ、今後のフォレストマスターのご活躍と、木育活動のさらなる発展に繋がる有意義な研修となりました。

森のキセキ . . . 竹の分解 . . .

6月13日（土）、長与町高田郷の竹林で第2回技術研修会を開催しました。この竹林は、東高田自治会の方々を中心にボランティア活動として手入れを行い始めたところで、今年で3年目の整備活動となります。長期にわたり人の手が入っておらず、当初は枯れて倒れた竹が散見され、足の踏み場もないような状況でした。

今回の整備も先ずは林床の整理として枯竹の集積を主に行いました。写真（下）のようにある程度長さを揃え積み上げていきます。集積という”邪魔だから寄せておく”と言うイメージがありますが、「集積することで竹が土に還るプロセス」が始まるのです。バラバラに放置するより、まとめた方が湿気が保たれ、分解が進みやすい環境になります。また、林床が整理されることでタケノコが生えてきやすくなります。



作業前:枯竹で足の踏み場もない



作業後:集積された様子

竹の分解は木材と比べると早いと言われますが、皆さんは何年くらいかかるといいますか？長年、竹林整備を行ってきたセンター長に話を聞くと、触ると崩れる状態になるまで7年位はかかるとの事でした。

分解過程は、まず表面が乾燥し始め数カ月で表皮にひびが入り、1～2年経つと節と節の間が空洞になり内側から崩れ始め、3～5年程で形が崩れ下の方から土の中に沈んでいきます。竹の種類や気候、積み方によっても変わり、湿った場所に集積されている方がより早く分解されるそうです。

竹林整備は、一度やって終わりではありません。枯れた竹も栄養となり、竹林としての生態系が回復していきます。継続して竹林の再生に取り組んでおられる東高田郷自治会の皆さま、整備お疲れ様でした。



センターからのお知らせ

センターでは、整備で出た枝や竹を粉碎するチップperを無料で貸し出しています。貸出件数は限りがありますので、お早めにセンターまでご連絡ください。TEL：095-895-8655



キャタピラー九州
(諫早市)に借り
にいていただきます。

センターのHPページは→



登録団体の皆様へ 7月分の活動報告は、8月10日までにご提出ください。